

Kirchenrätin Christine Busch

林原牧師就任式 式辞

2007年10月21日

親愛なる会衆の皆さん！

敬愛する林原先生！

今日、ドイツのプロテスタント各州教会の HP には、「**過渡期にある教会**」という見出しが良く出てきます。それは、各個教会や教会連合の中で、また教会が運営する様々な施設や事業に於いて深刻な変化が生じているからです。今後25年で教会員数の三分の一、また教会財政の50%の減少・縮小が予想されています。これは「量」的に大変な減少であるというだけではなく、一体どれだけ教会の活動の「質」に影響を及ぼすのか、と我々一人一人が真剣に自分に問いかけざるを得ないほどの規模の変化です。

これだけの規模の衰退は、一つの教会に如何なる影響を与えるのだろうか？無償奉仕が更にどれだけ必要となり、かつ可能であろうか？有給の専任者はどれだけ必要なのだろうか？

これらの問いは、この小さなケルン・ボン日本語キリスト教会が 30 年前から、即ちその設立の時から抱え続けている問題です。自分達の牧師を持ちたい、というのがケルン・ボン教会の下した決断です。説教者であり牧会者として、そして神学上の教師であり霊的な同伴者として、自分達とともに、そして自分達と共通の言語で、十字架で死なれ、復活されたイエス キリストを証しする、そのような自分達の牧師を持ちたい、と決断したのです。洗礼を受けた者は全て伝道者としての意識を持つ信徒の群れ：日本語を話しプロテスタントの信仰に立つ、という共通項によって結ばれ、ドイツの文化の中に、またケルン近郊の複合文化の中にエネルギーを放射する、そのような教会としてケルン・ボン教会は立たされているのです。

最初の聖霊降臨の出来事以来、教会には、神との出会いを様々な異なる形で経験した非常に様々な人達が集っています。そのような人達一人一人が聖霊に満たされ、賜物を与えられ、満ち足りた人生への彼らの望みが受け入れられるのです。これこそが、私達の使徒信条第三項目に掲げられている、「**聖徒の交わり**」なのです。牧師はこのことを求められています。牧師は、必要なあらゆる手段を講じてその実現に努めなければなりません。それは、教会が与えられた役目を果たすことができるための前提条件なのです。

マルチン ルターは、「お互いのために」キリストのように(仕えるもの)なるべきである、という表現をよく用いています。というのは、私達は皆それぞれに、聖霊を通して特別な賜物を与えられており、神の御業を、その賜物を用いて、言葉と行いによって、個人生活に於いても職業生活に於いても証しする者の群れだからです。

**バルメンの神学的宣言**(1934年に、告白教会がナチスに対抗して進むべき道を決定付けた宣言)は、このことを第六テーゼで次のように取り挙げています。「神の自由な恵みの使信をすべての人に伝える、ということが教会への神の委託であり、その委託は、説教と sacrament を通して、キリスト御自身の御言葉と御業に奉仕する中で実践されるのである。そして、将にその委託の中にこそ、教会の自由の基礎があるのである。」

そして、本日は多くの教会で、**コロサイの信徒への手紙2, 8-10**が説教テーマとなっています。

「人間の言い伝えに過ぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、あなたがたは、キリストにおいて、満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。」(新共同訳)

親愛なる林原先生、貴方の**任務と委託**は、不安で心騒がせる現代社会に於いて、しかも常に新しいイデオロギーの挑戦に晒されている中で、恵みの使信をいつも新たに解釈し伝えることにあります。その際、神の聖霊が貴方を導き、神の言葉と神の義のために、人々の心を開いて下さるでしょう。このような素晴らしい任務に、本日貴方に就いて頂く訳です。では、共に祈りましょう。

**来たれ、聖霊よ！そしてあなたの恵みで私達の心と感覚を満たして下さい！ アーメン**

*PfarrerIn Christine Busch ist Kirchenrätin der Evang. Kirche im Rheinland, Düsseldorf.*